

平成28年度開催公開講座一覧(全20講座) ※参加人数は複数日程の場合は延べ人数で集計

担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	募集人数	参加人数
公開講座委員会	多角的リスクのマネジメント—金融危機、政治経済危機、軍事危機、高齢社会の危機、自然災害といった各種事例に見る危機対応のあり方とリスク共生社会への示唆	工学と理学をもとに現代の最先端技術は飛躍的な進歩をとげ、社会や生活のあらゆる場面で活用され、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。現代社会が真に豊かでゆとりあるものにするためにはどのような科学技術が必要か、理工学が拓く未来社会と私たちとの関わりや将来展望について考えます。	野口 和彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 鎌原 勇太 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 専任講師) 高橋 正彦 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授) 関 ふ佐子 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授) 鈴木 雅貴 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授) 松永 友有 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授)	2016年11月11日 (金) 2016年11月18日 (金) 2016年11月25日 (金)	横浜国立大学 教育文化ホール 大会議室	200	698
統合的 海洋教育・ 研究センター	神奈川の海を知る 2016	神奈川県は東京湾と相模湾に隣接し、多くの海洋関連企業と研究開発機関が立地しています。一方、湘南海岸という日本有数の観光と海洋レジャー地域もあります。そこで、本講座では神奈川の県民に身の周りにある海についてのリテラシーを高めてもらうため、現代日本の海洋政策のキーワードである統合的海洋管理の視点から専門家が解説します。	総合的海洋教育・研究センター教員他	2016/5/18(水) 2016/6/1(水) 2016/6/15(水) 2016/6/29(水) 2016/7/13(水)	横浜市西区みなとみらい2丁目3番5号 クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階 一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム	80	352
教育人間科学部	川辺と河原の芝居小屋—近世都市の「自由空間」—	江戸の芝居小屋(歌舞伎の劇場)はどんな場所にあったのでしょうか。見世物などの他の芸能を含め、それらはしばしば都市の川辺や河原の空間でおこなわれていました。近世初期の京都また江戸の事例から「自由空間」としての川辺と河原のあり方を示し、今日的可能性も視野に入れながら、楽しく見つめてみたいと思います。	川添 裕(横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	2016/6/18(土)	みなとみらいキャンパス	30	37
教育人間科学部	言葉の来た道—心頭滅却すれば火もまた涼し—	「心頭滅却すれば火もまた涼し」とは戦国時代の禅僧の辞世の偈として有名です。これは遼と宋の仏教書『碧巖録』、さらには唐の詩にたどり着くことも知られています。しかしこの言葉の来歴はもう少し複雑であるようです。夏になると今でも人々が口にするこのフレーズの来た道をゆっくりたどってみたいと思います。	高芝 麻子(横浜国立大学 教育人間科学部 准教授)	2016/6/25(土)	教育人間科学部7号館202教室	30	35
男女共同 参画推進 センター	ライフキャリア講座 PART II (女性キャリアパス編)—将来の仕事と生活について考えよう—	ライフキャリアは、職業、家庭、地域活動、趣味、学びなど生活全般の中で果たす役割や経験の積み重ねのことをいいます。本講座は、本学のワークショップ形式の講義「女性キャリアパス」を参考に、女性の様々なキャリア形成についてお話を聞いた後、参加者同士で話し合い、自身の将来の仕事と生活について考えます。	有光直子(横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 鈴木紀子(横浜国立大学 男女共同参画推進センター 准教授) 他	2016/7/9(土)	教育文化ホール 中会議室	40	25
教育人間科学部	快適被服を科学する—猛暑の夏の熱中症予防と服装の関わりを考える—	2011年の東日本大震災の影響で夏季の節電対策の一環として衣服の役割が注目されましたが、衣服は熱中症予防や健康・快適性維持にも貢献することが期待されています。暑熱環境下で温熱的快適性を維持するためにはクールビズで象徴されるような環境共生型の衣服の着方が大切です。季節に適合し、環境にも優しく、着用者自身にとっても快適な衣生活を営むためには、なにが重要であるのか、簡単な実験も交え、一緒に考えましょう。	薩本 弥生(横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	2016/7/10(土)	教育人間科学部7号館102、103 教室	50	35

平成28年度開催公開講座一覧(全20講座) ※参加人数は複数日程の場合は延べ人数で集計

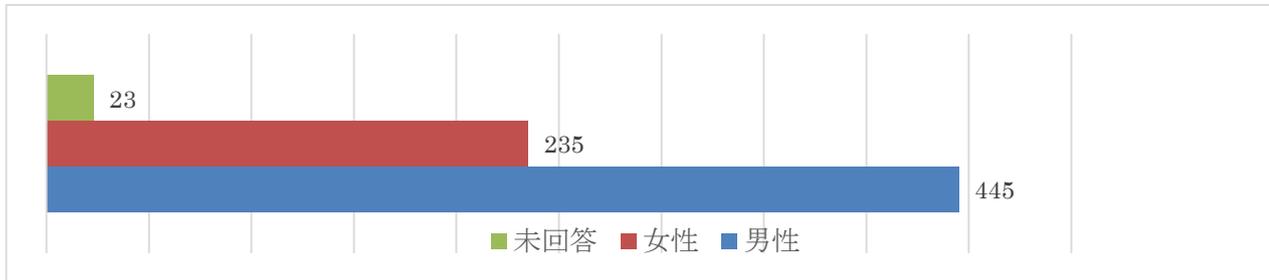
担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	募集人数	参加人数
理工学部	第10回 海洋空間のシステムデザインカップ ひれ推進コンテスト	本コンテストでは、高校生に海や船・物造りの魅力を伝えるために講義とコンテストを実施します。まずは、7/18(月(海の日))に船や魚のひれに関する公開講座として講義を実施します。その後、8/27(土)までに各高校の参加チームにひれ推進模型を製作していただき、これらを大型実験水槽にて走らせ、そのスピードを競うコンテストを行います。なお、講義の内容は以下の通りです。「(1) 船はどんなふうに浮くの? (2) 船はどうやったら速く走れるの? (3) ひれ推進模型の制御について」	鈴木 和夫 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 村井 基彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 川村 恭己 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 平川 嘉昭 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 樋口 文浩 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 高山 武彦 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	2016/7/18 (月祝) 2016/8/27 (土)	理工学部講義棟、船舶海洋工学棟3階講義室、大型実験水槽	60	130
機器分析評価	高校生のための分析入門講座「テクノワールド 2016」 —最先端の分析機器を体験しよう—	大学の研究で用いる最先端の分析機器の操作体験をしましょう。分析装置の原理を理解し、身近なものを対象に自分で操作して観察・分析を行います。最先端の研究機器を体験してみましょう!! 実習予定テーマ: ナノの世界を探検(透過電子顕微鏡・TEM)、飲料水の有機成分分析(核磁気共鳴装置・NMR/質量分析装置・MS)、放射線を見てみよう(イメージアナライザー)	栗原 靖之 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 谷村 誠 (横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授) 中川 哲也 (横浜国立大学 大学院工学研究院 助教授) 近藤 正志 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 石原 晋次 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 高梨 基治 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員) 田中陽一郎 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員)	2016/7/27 (水)	機器分析評価センター	15	19
機器分析評価	バイオテクノロジー実験講座 先端バイオテクノロジーを理解する ~遺伝子工学と細胞工学~	本講座は、高校教員や学生、一般の方を対象として、進歩を続けるバイオテクノロジーの理解を深めることを目的としています。遺伝子工学や細胞工学についての基礎を学習し、実際に先端的な機器や培養細胞を使用して実験を行うことで、食品、医療、農業等の様々な分野で応用されている重要な技術を学びます。	栗原 靖之 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 田中 陽一郎 (機器分析評価センター 技術職員)	2016/8/1 (月) 2016/8/2 (火)	機器分析評価センター RI教育研究施設 一般実験室 生物・電子情報棟 3階 301室	5	10
都市イノベーション	都市交通最前線サマースクール —モビリティ・デザイン演習体験—	都市交通計画及び交通工学に携わる行政職員やエンジニア、都市交通計画及び交通工学を学ぶ若手研究者や学生を対象に、モビリティ・デザインの演習体験を通して、実践的な考え方を学んでいただきます。	中村 文彦 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授(理事)) 田中 伸治 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) 牧村 和彦 (一般財団法人 計量計画研究所 次長)	2016/8/8 (月) 2016/8/9(火) 2016/8/10(水)	一般財団法人計量計画研究所 千162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-9	15	42
情報基盤センター	プログラミング体験入門 —Processingによるグラフィカルなプログラム作成の基礎—	Processingとは、比較的簡単に視覚的な表現が可能なプログラミング言語であり、初心者でも学びやすい言語です。また、開発環境も無償で手に入れることができます。本講座では、Processingを用いて、グラフィックスやインタラクションに関する簡単なプログラムを作成し、その楽しさを体験します。	塩野 康徳 (横浜国立大学 情報基盤センター 助教)	2016/9/3 (土)	情報基盤センター PC教室	30	25
工学研究院	実践機器分析基礎講座(1) —初心者のための機器分析 X線、電子線を用いる固体試料の観察及び分析—	本講座は固体試料の観察及び分析の初心者や実務者を対象とするものです。 固体試料の観察でよく用いられるX線回折(XRD)および透過電子顕微鏡(TEM)を中心として、X線および電子線を用いる分析機器の原理、得られる結果、試料調製法等を講義とデモで紹介いたします。また、XRDおよびTEMの実習を行います。	梅澤 修 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 谷村 誠 (横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授) 近藤 正志 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 高梨 基治 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員)	2016/9/8 (木) 2016/9/9 (金)	機器分析評価センター 先端科学高等研究院棟	10	12
教育人間科学部	レクチャーコンサート: ピアノ曲からみた音楽と社会 —バロック・古典派・ロマン派の音楽作品と西洋の社会—	音楽はそれを生み出した社会を反映する「社会の鑑」であり、西洋の芸術音楽もまた西洋の社会・歴史とあわせてみるとよく分かることがあります。本講座ではとくにピアノ作品をとりあげ、18世紀から19世紀にかけての三つの時代/様式(バロック、古典派、ロマン派)の音楽の作りを、その背景と照らしあわせながら、ピアノの実演とともにみていきます。	金光 真理子 (横浜国立大学 教育人間科学部 准教授) 森野 かおり (横浜国立大学 教育人間科学部 講師)	2016/9/12 (月)	教育文化ホール 大会議室	200	180
教育人間科学部	イタリア音楽紀行—オペラだけではない! イタリアの民俗音楽の多様性—	イタリアというと、オペラをはじめとするクラシック音楽の国というイメージが強いですが、実は民衆が伝統的に親しんできた歌や楽器など民俗音楽の宝庫でもあります。本講座ではイタリアの北から南まで各地の代表的な音楽を、その特徴を解説しながら、映像や音源とともにご紹介します。	金光 真理子 (横浜国立大学 教育人間科学部 准教授)	2016/9/15 (木)	教育文化ホール 大会議室	200	132

平成28年度開催公開講座一覧(全20講座) ※参加人数は複数日程の場合は延べ人数で集計

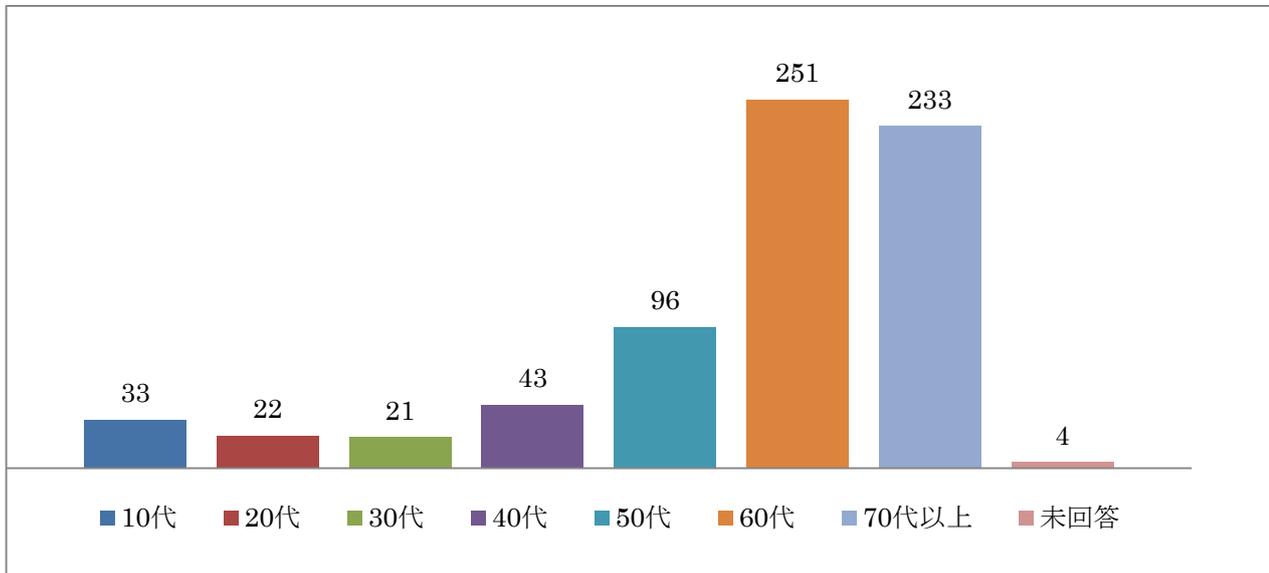
担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	募集人数	参加人数
工学研究院	実践機器分析基礎講座(2) 機器分析を利用した有機分子構造解析の実際—機器の選択とアプローチ—	分子構造解析は物質の性質を考える上で極めて重要なアプローチです。本講座は分子構造解析の初心者や実務者を対象とし、『分析機器をどのように選択し利用したらよいか』を理解するために、核磁気共鳴(NMR)および質量分析(MS)と中心として実際の測定を交えて学習します。	川村 出(横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 中川 哲也(横浜国立大学 大学院工学研究院 助教) 石原 晋次(横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員)	2016/9/28(水) 2016/9/29(木)	機器分析評価センター	8	11
教育人間科学部	文学と人間形成—ドイツ語圏の文学を通して—	本講座は、人間形成の思想についてドイツ語圏における文学を通して学ぶことを目的とします。ドイツ語圏スイスの作家ローベルト・ヴァルザーの小説や散文について研究を進めている東京学芸大学 若林准教授とともに、文学に現れる教育や人間形成について共に考えていきます。人間形成の思想は、時代や文化を反映したものであるため、現代の教育を見直す大切な視点につながると思います。	藤井 佳世(横浜国立大学 教育人間科学部 准教授) 若林 恵(東京学芸大学 教育学部 准教授)	2016/9/30(金)	みなとみらいキャンパス(予定)	50	49
地域実践教育研究	ヨコハマ地域学・かながわ地域学ベストセレクション—地域実践教育研究センター10周年記念企画—	この10年間にわたり講義を通じて積み重ねてきた「ヨコハマ地域学(地域連携と都市再生A)」と、「かながわ地域学(地域連携と都市再生B)」での地域における実践的な取組みと専門知識を凝縮した「ベストセレクション」を公開講座として開講します。横浜および神奈川において今後活動をされたい方はぜひご聴講ください。	高見沢 実(横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授) 他	2016/10/14(金)	メディアホール	100	118
環境情報研究院	ペットの法と政策—ワンだふるで持続可能な未来のために—	犬や猫などのペットは可愛い存在で、昨今では家族の一員のように扱われるペットも多いです。その一方で、ペットは法的な紛争の原因にもなります。また、ペットの流通のあり方等には、法的な統制が必要な場面も少なくはありません。本講座では、数あるペットのうちで、「犬」をとり上げ、「犬」にまつわる裁判や立法政策問題等について、紹介・説明し、受講者とともに「犬とともに生きる持続可能な未来」のあり方を考えます。	及川敬貴(横浜国立大学 環境情報研究院 教授)	2016/10/22(土)	環境情報3号棟101室	30	25
教育人間科学部	歩いて見に行こう神奈川の歴史と地理—(1)横浜山手、(2)桜木町・野毛山—	みなさんの身近な場所には、その町の歴史や地理に関わる「痕跡」がたくさんあります。普段は見過ごしているそれらに気がついたり、見つけ出したりすることは宝探しに似た面白さがあります。この講座では、みなさんと一緒に歩きながら、そうした「痕跡」を探し出し、町の歴史や地理について楽しく考えていきたいと思います。	吉田 圭一郎(横浜国立大学 教育人間科学部 教授) 多和田 雅保(横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	2016/10/29(土) 2016/11/5(土)	10月29日(土) みなとみらいキャンパス(予定)、および横浜山手 11月5日(土) みなとみらいキャンパス(予定)、および野毛山	15	29
経済学部	経済学を通じて考える経済社会問題—身近に存在する経済社会問題に経済学をどのように応用できるのか—	現代社会が抱える経済問題や社会問題が、経済学ではどのように解釈され論じられているのか、そして、それらの解決にはどのような経済政策が有効に働くのかについて、ミクロ経済学・マクロ経済学・金融論の専門家がそれぞれの角度から講義していきます。	鈴木 雅貴(横浜国立大学 国際社会科学研究院 准教授) 藤生 源子(横浜国立大学 国際社会科学研究院 准教授) 無藤 望(横浜国立大学 国際社会科学研究院 准教授)	2016/11/11(金) 2016/11/18(金) 2016/11/25(金)	経済学部講義棟1号館101教室	120	116

各部局開催の公開講座 参加者アンケートの集計結果

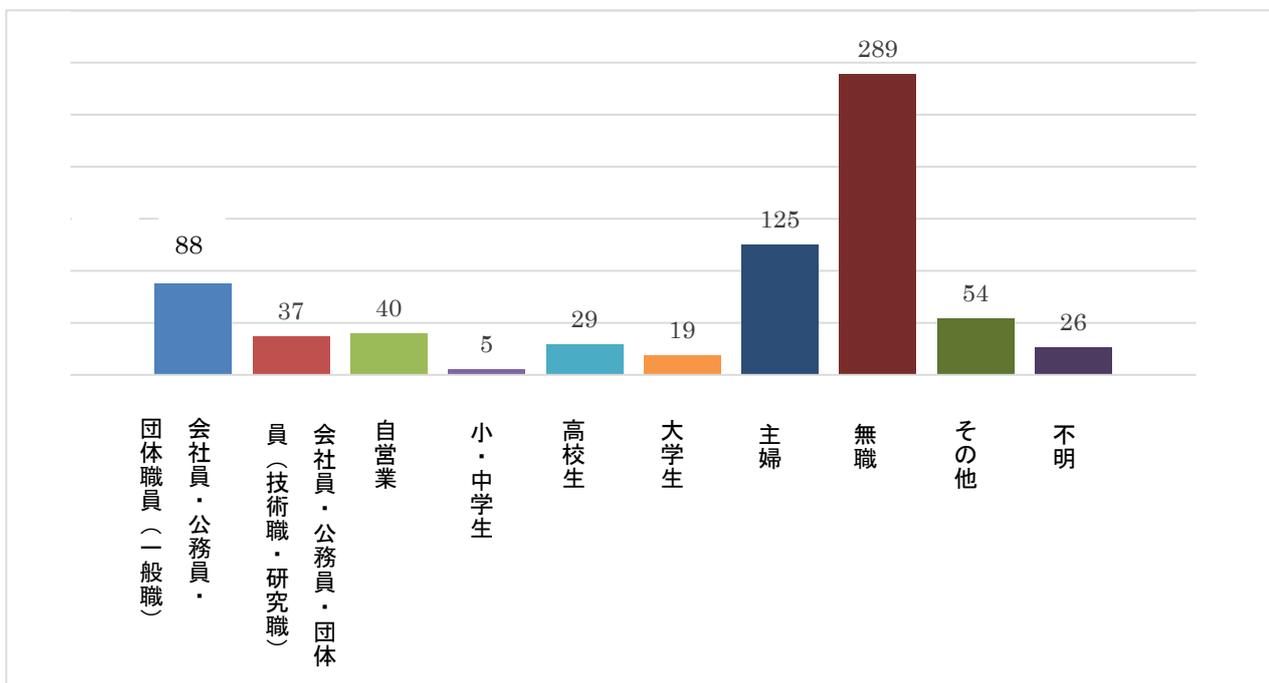
性別



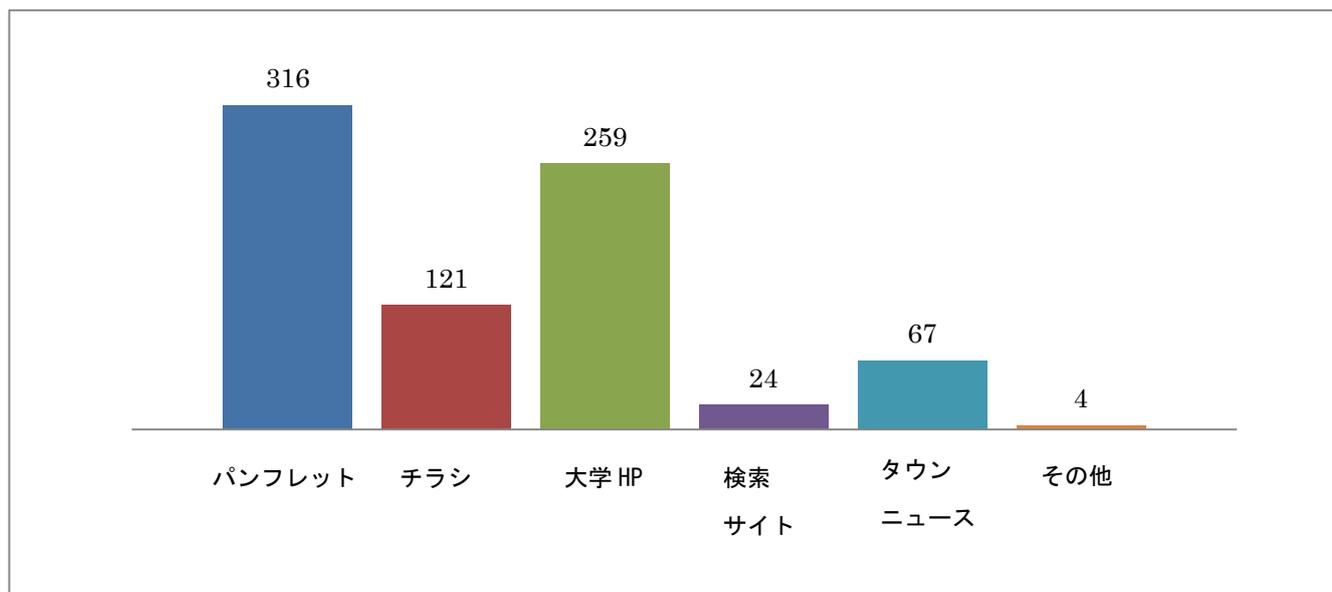
年代別



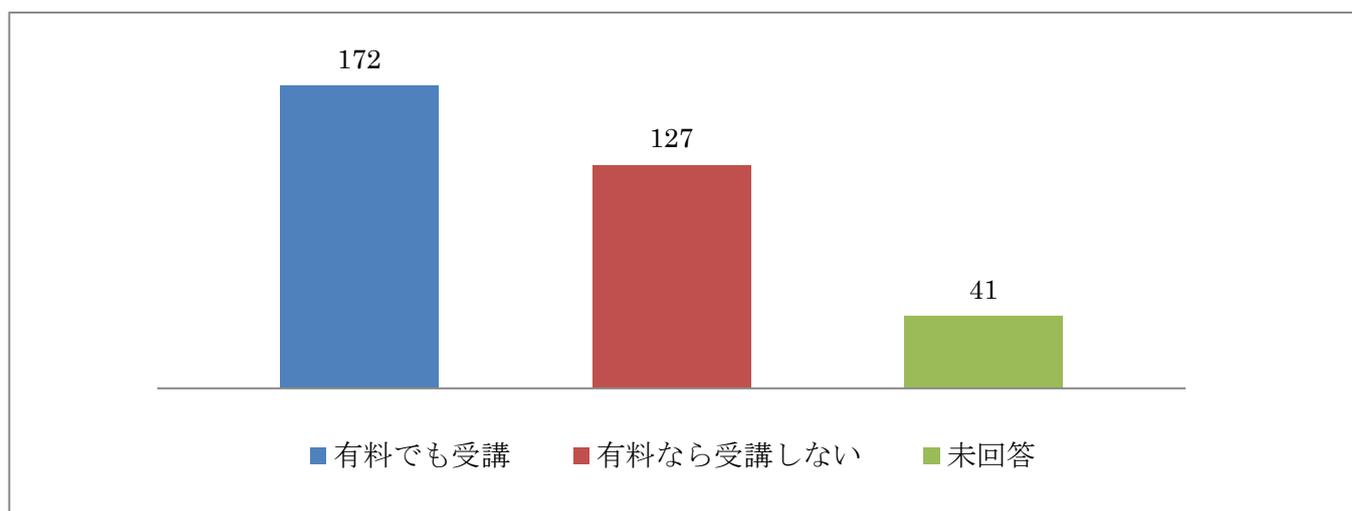
職業別



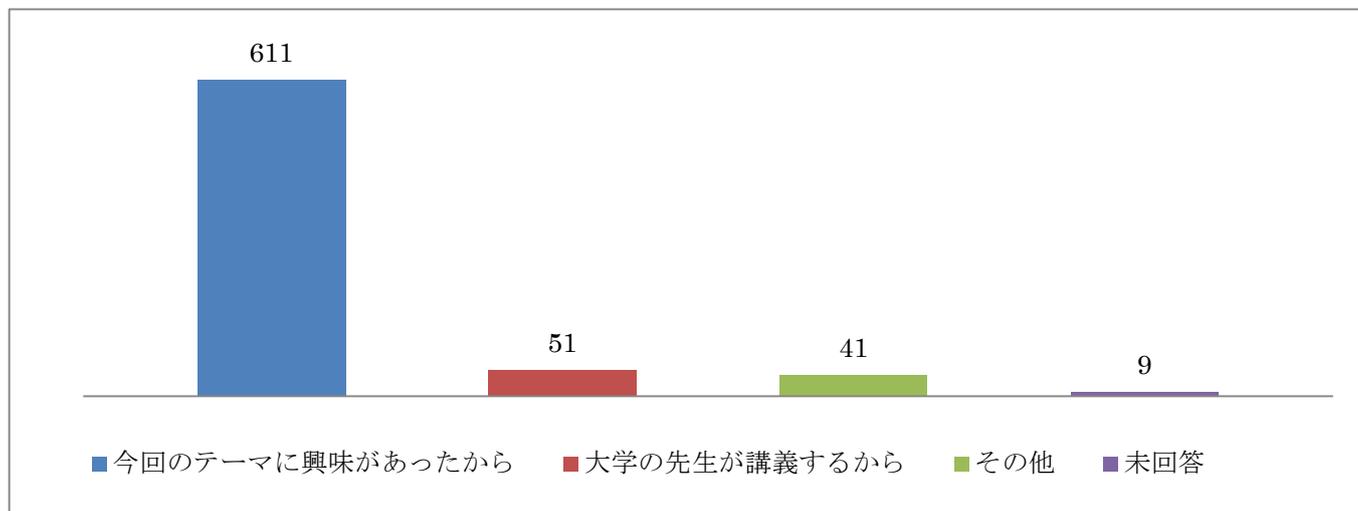
どこで本学の公開講座を知ったか



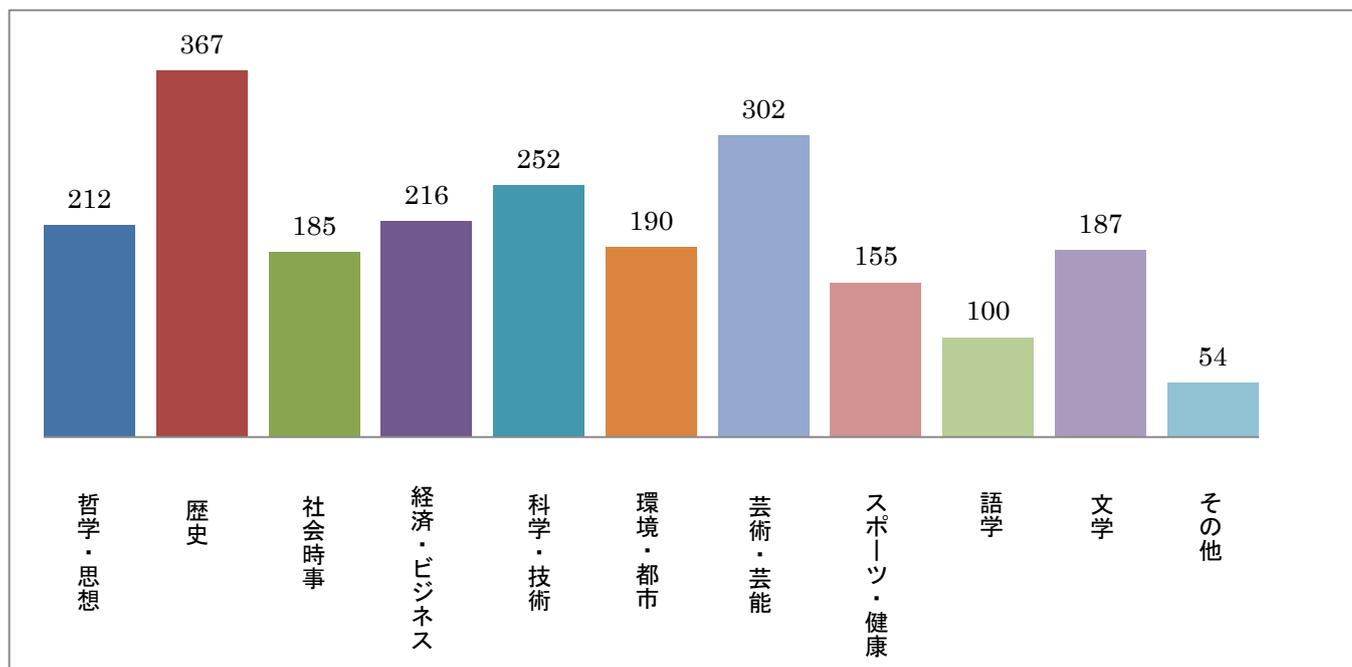
受講料について（無料講座の場合）



今回の公開講座の受講動機について

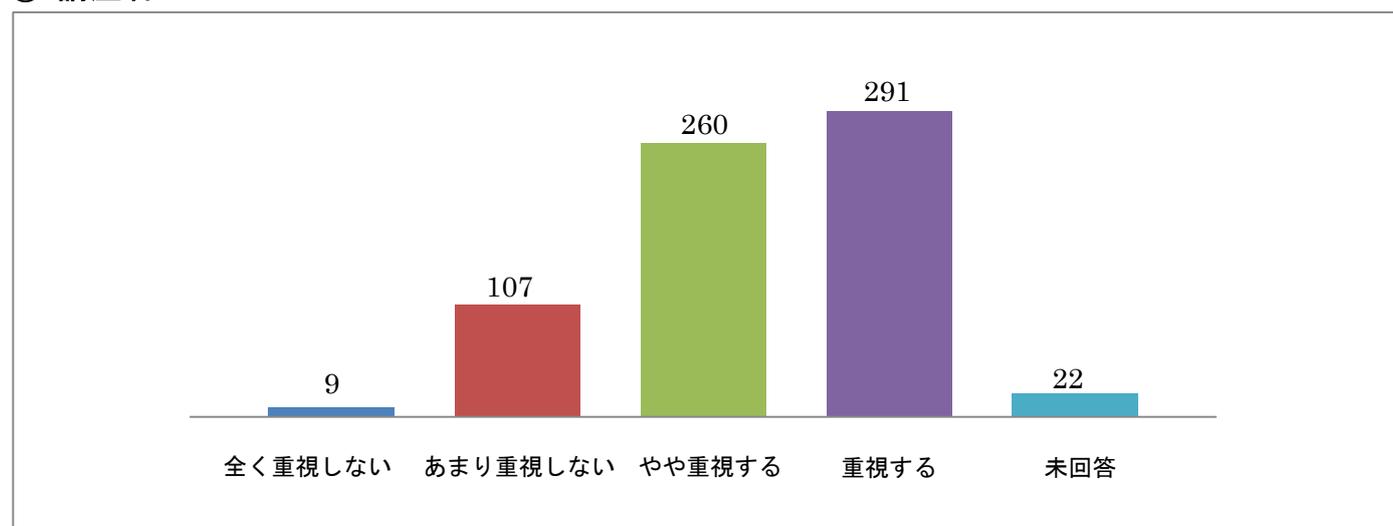


今後希望するテーマ

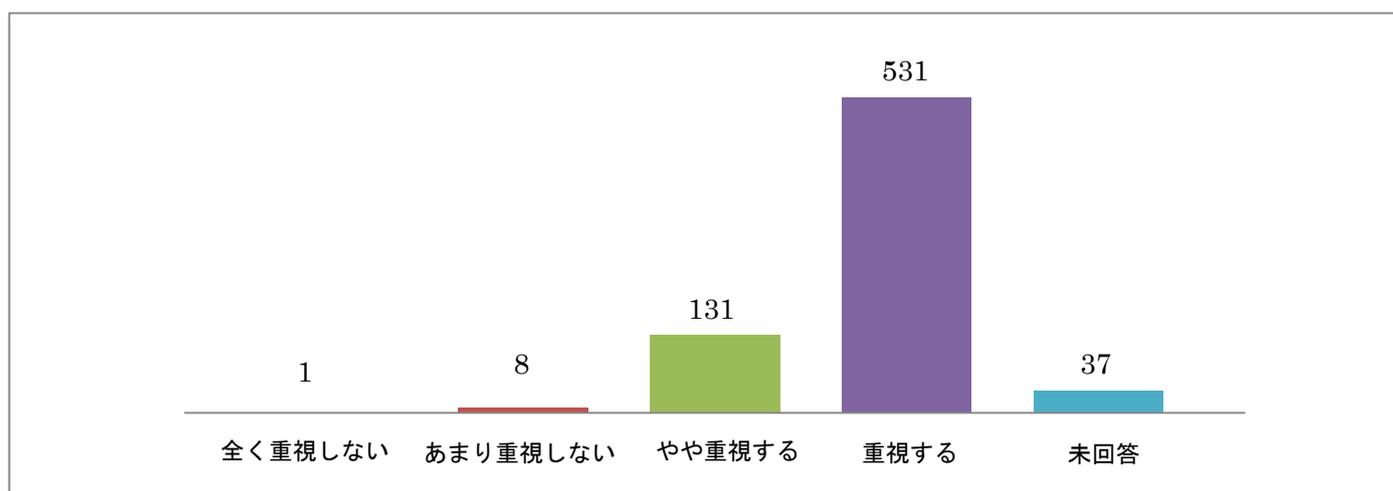


受講を決める際に、以下のことをどの程度重視するか

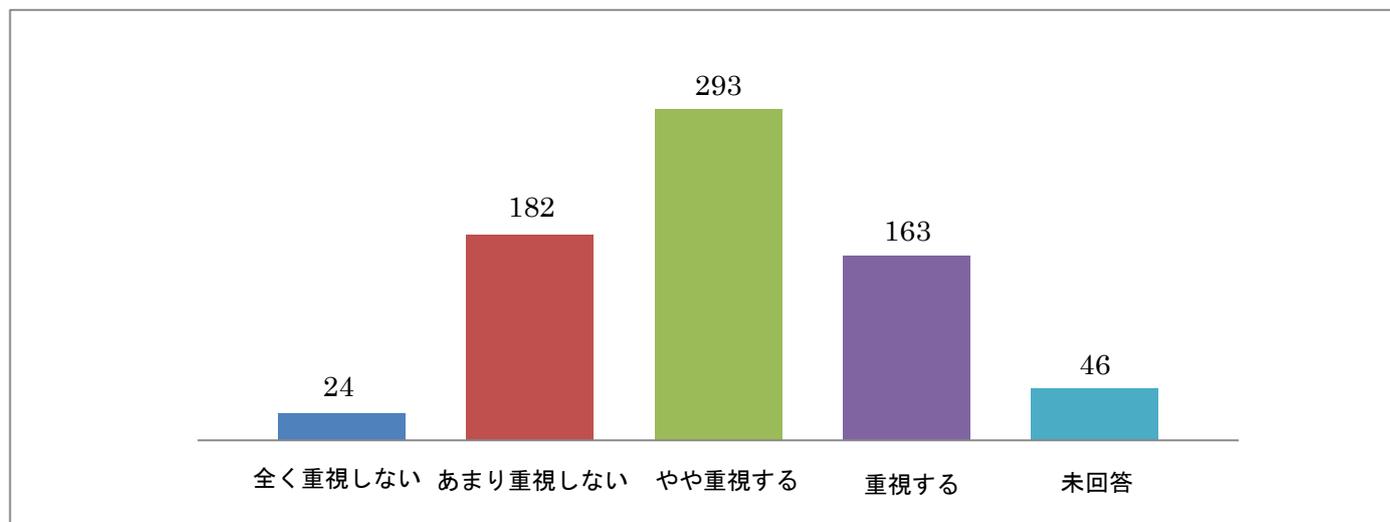
① 講座名



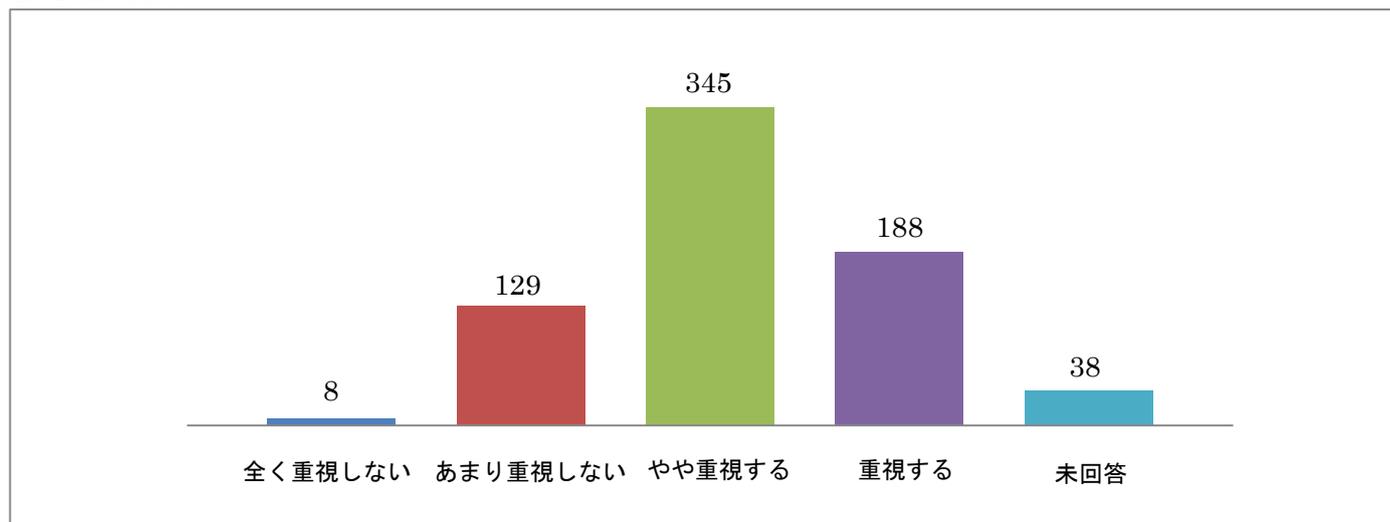
② 講座内容



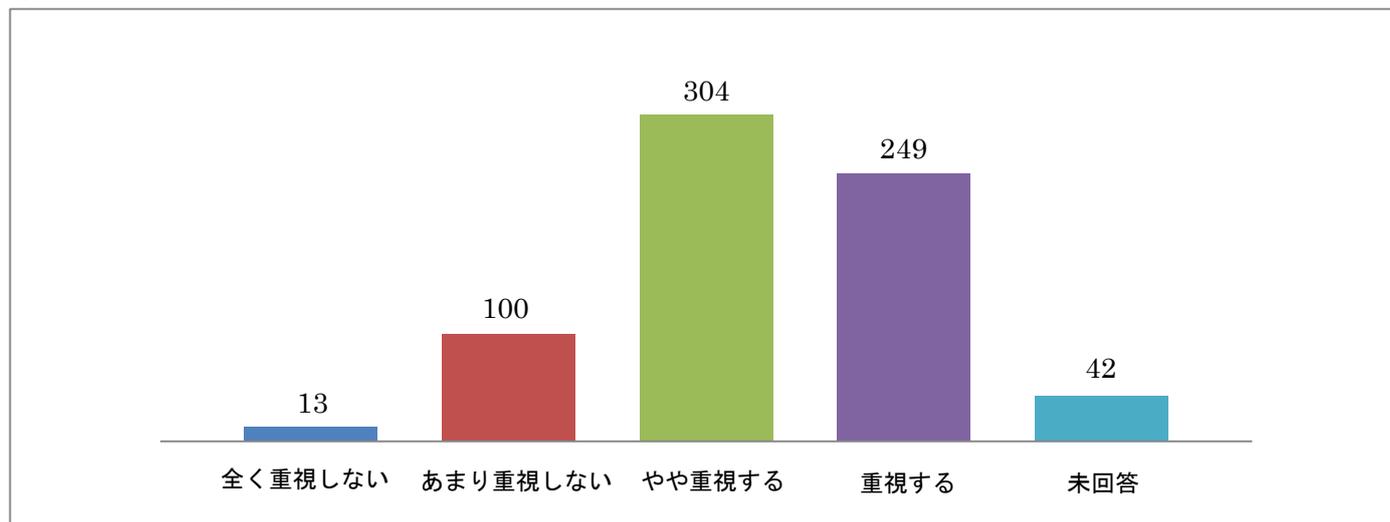
③ 主催期間



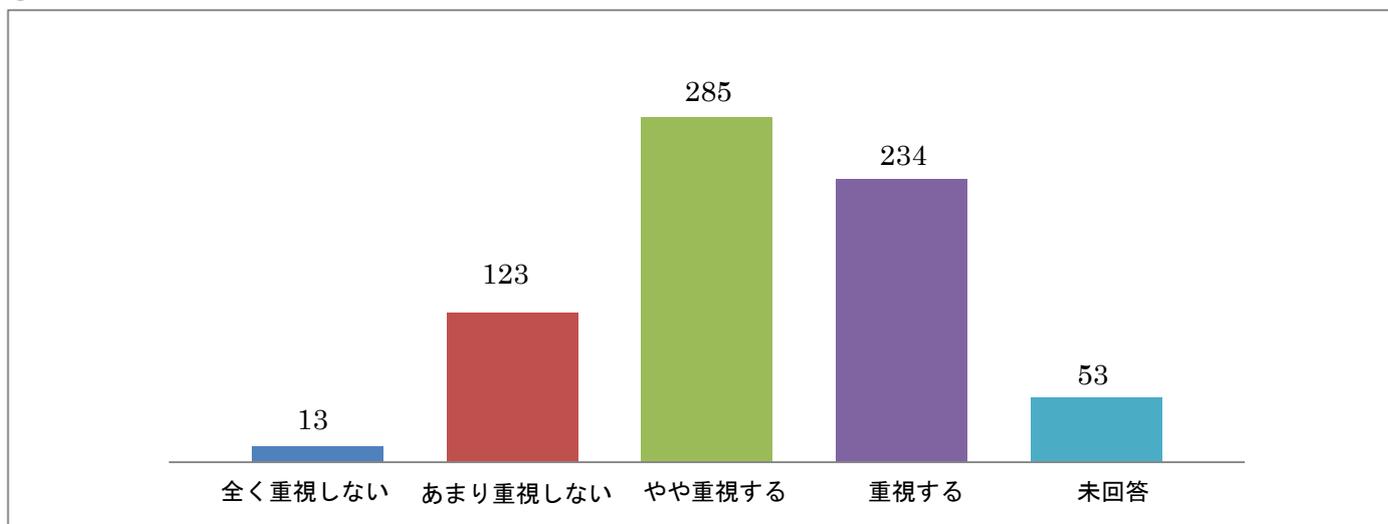
④ 開催場所



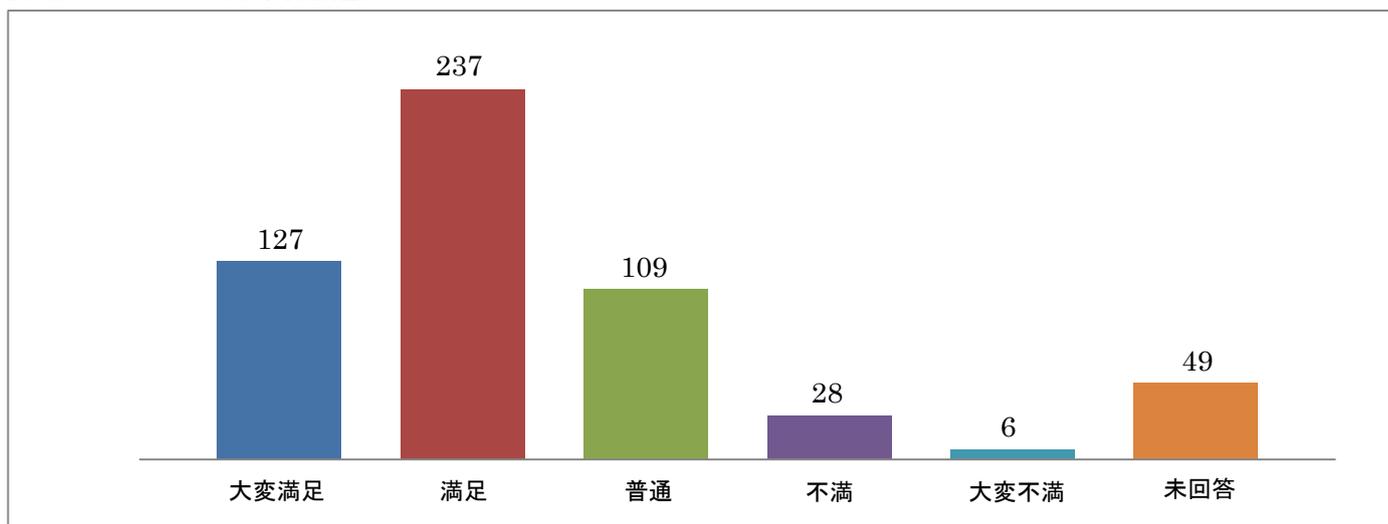
⑤ 日程・時間帯



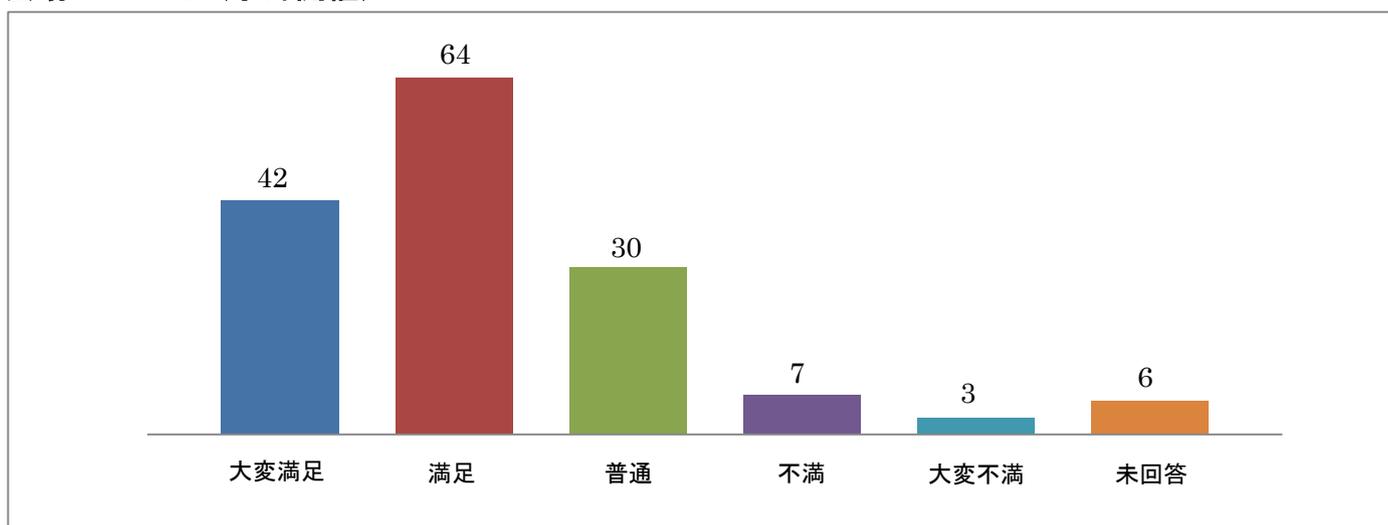
⑥ 受講料



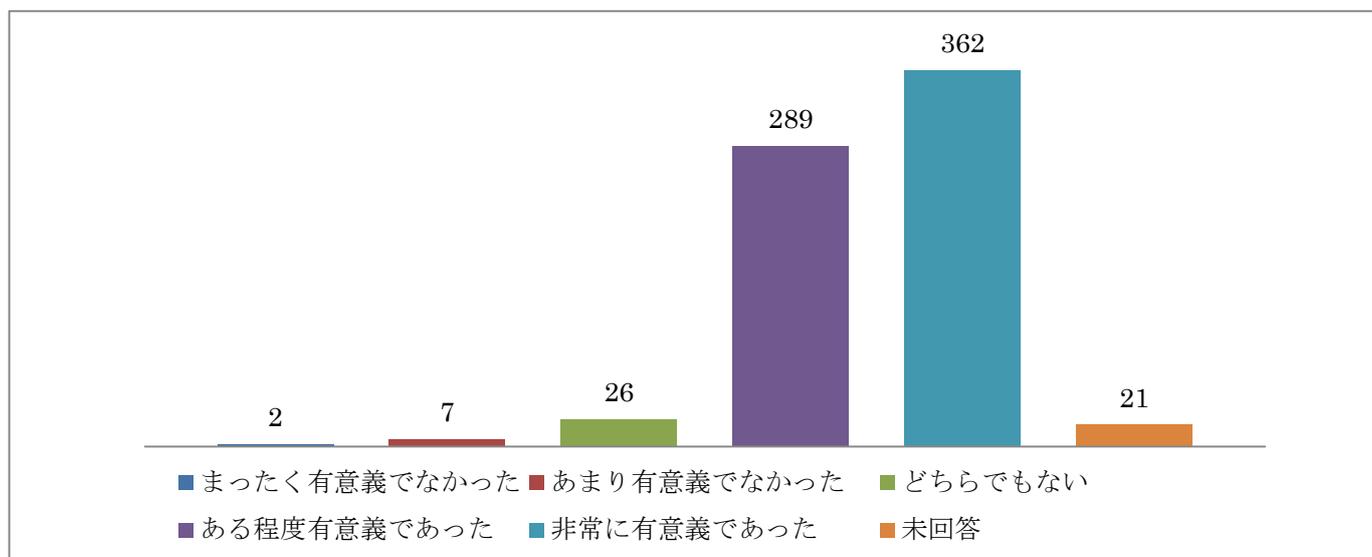
会場について（学内開催）



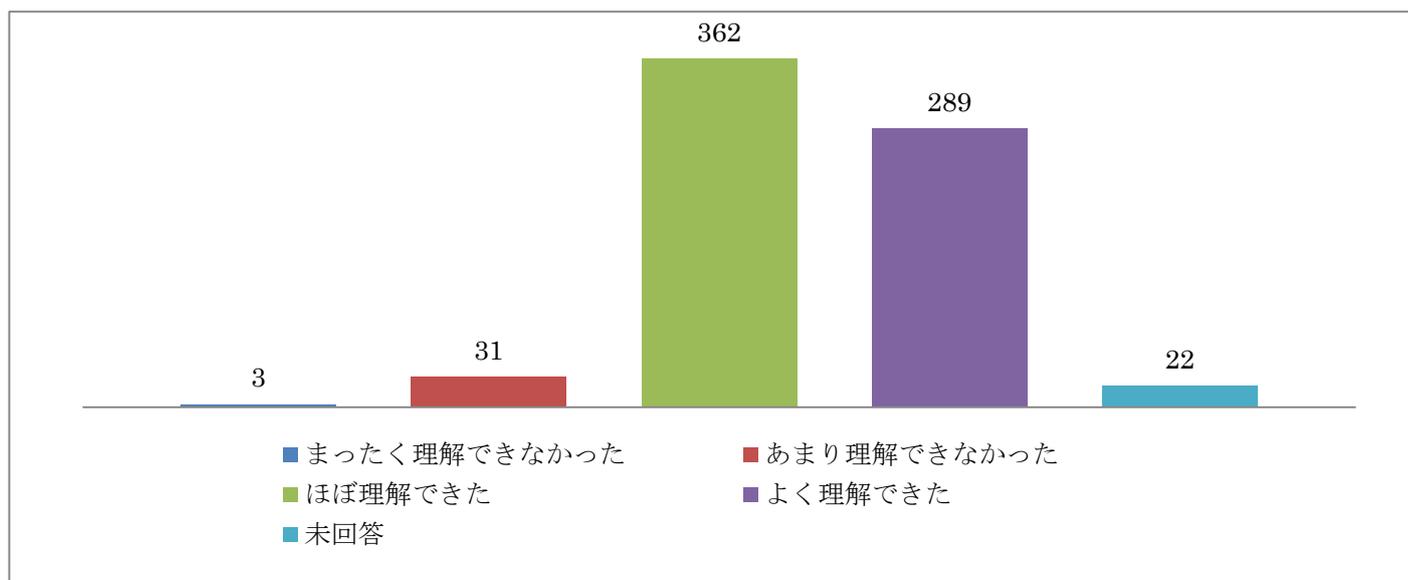
会場について（学外開催）



受講して有意義であったと思うか



講座内容について理解できたか



公開講座委員会主催

「多角的リスクのマネジメント」実施報告

◆総括

本講座は本学と読売新聞横浜支局の共催で、横浜国立大学教育文化ホールにおいて2016年11月11日から11月25日にかけて3日間の計6回開催されました。

本年度のテーマは「多角的リスクのマネジメント」であり、多様な分野の危機対応に関わるケースを通じて、このリスク社会において「リスクと共生する」という考え方について専門家が解説する講義でした。今年度は読売新聞の紙面での告知だけでなく、本学の強みである「リスク共生学」という分野をテーマに取り上げたこともあり、10代から70代までの幅広い年齢層から184名の申し込みがありました。

実際の受講者は平均116名でした。そのうち4回以上出席の方は申込者の約63%の117名であり、その受講者に修了証が授与されました。

アンケート結果を見ると受講の動機の87%は「多角的リスクのマネジメント」というテーマへの興味でした。全体で86%の受講生が「よく理解できた」あるいは「ほぼ理解できた」と回答しており、83%の受講生が「非常に有意義であった」もしくは「ある程度有意義であった」と回答しており、今回の講座に対して高い評価が得られたものと考えます。アンケートに記入した受講生のうち53%は有料であっても出席すると答えており、受講動機を合わせて考えると今回のテーマへのニーズは高いといえます。

本年度の全学公開講座の実施にあたって、5人の講師の先生はもちろんのこと、熱心に受講された方々、告知や記事掲載をしていただいた支局長をはじめ読売新聞横浜支局の方、講座の実施に心から尽力いただいた事務局の皆様深く感謝いたします。

◆申込者数 212名

◆申込者の年代

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
人数(名)	2	3	4	12	29	82	52	184

◆受講者数（出席カード提出者数）

開催日	講師	受講者数（名）
11月11日	大学院国際社会科学研究院 松永 友有 教授	117
11月11日	教育人間科学部 鎌原 勇太 専任講師	109
11月18日	大学院国際社会科学研究院 鈴木 雅貴 准教授	124
11月18日	大学院国際社会科学研究院 高橋 正彦 教授	121
11月25日	大学院環境情報研究院 野口 和彦 教授	113
11月25日	大学院国際社会科学研究院 関 ふ佐子 教授	114

◆修了証授与数 117名

全6回中、全4回出席した者に修了証書を授与

平成28年度 公開講座委員会主催主催
公開講座アンケート結果

【問1】今回の公開講座の受講動機について、教えてください。
(複数回答可)

今回のテーマに興味があったから	633
大学の先生が講義するから	62
その他	22
未回答	12

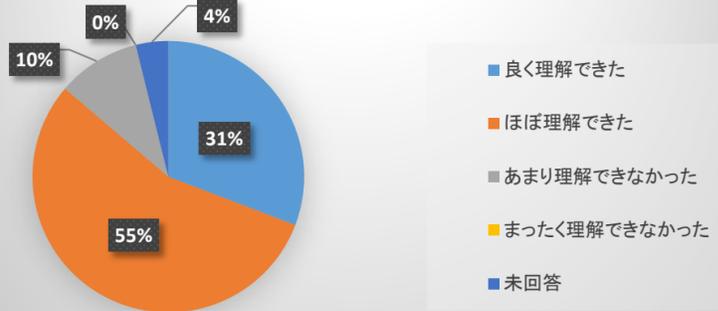
【問1】 今回の公開講座の受講動機について、教えてください。
(複数回答可)



【問2】講座内容について、いかがでしたか。

良く理解できた	215
ほぼ理解できた	387
あまり理解できなかった	69
まったく理解できなかった	0
未回答	27

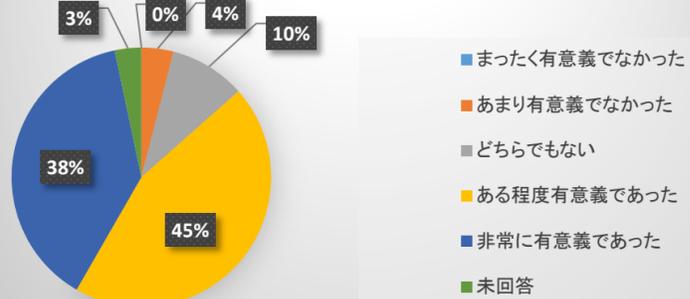
【問2】講座内容について、いかがでしたか。



【問3】受講して有意義であったと思いますか。

まったく有意義でなかった	0
あまり有意義でなかった	28
どちらでもない	66
ある程度有意義であった	313
非常に有意義であった	268
未回答	23

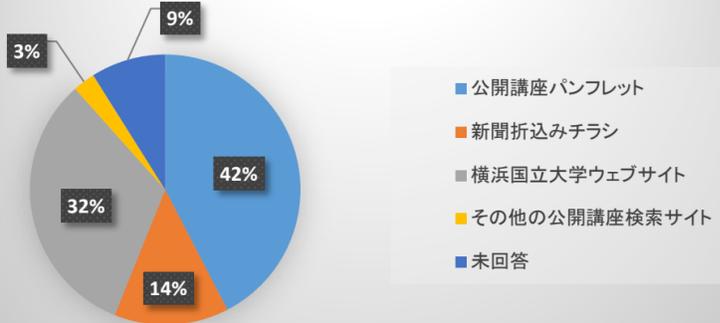
【問3】受講して有意義であったと思いますか。



【問4】公開講座をどこで知りましたか。(複数回答可)

公開講座パンフレット	223
新聞折込みチラシ	72
横浜国立大学ウェブサイト	170
その他の公開講座検索サイト	14
未回答	47

【問4】次回この講座が有料の場合、受講されますか？

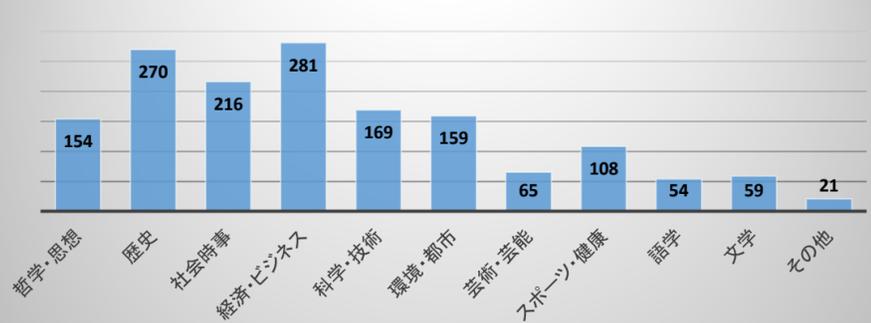


(問5以下は、初回の受講者のみ記入)

【問5】今後、どのような内容の講座を希望されますか。
(複数回答可)

哲学・思想	154
歴史	270
社会時事	216
経済・ビジネス	281
科学・技術	169
環境・都市	159
芸術・芸能	65
スポーツ・健康	108
語学	54
文学	59
その他	21

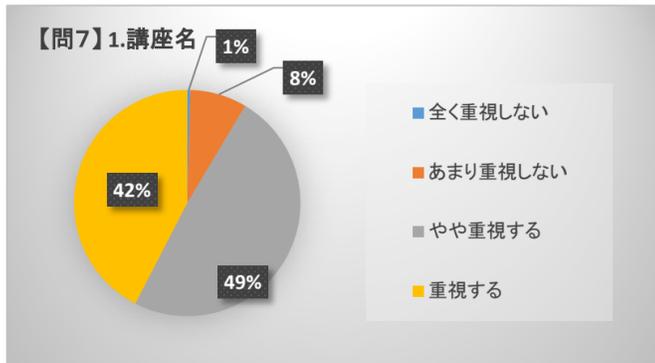
【問5】 今後、どのような内容の講座を希望されますか。
(複数回答可)



【問7】公開講座の受講を決める際に、以下のことをどの程度重視されますか。

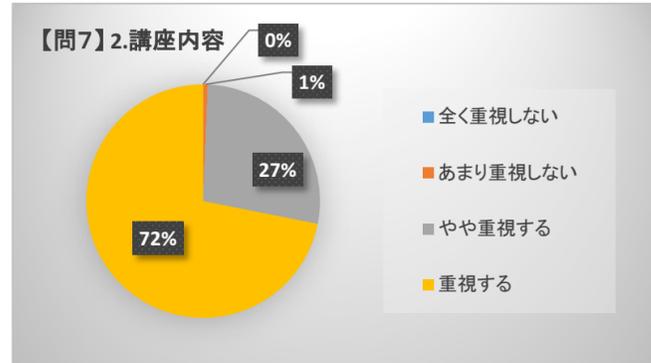
1. 講座名

全く重視しない	2
あまり重視しない	37
やや重視する	223
重視する	193



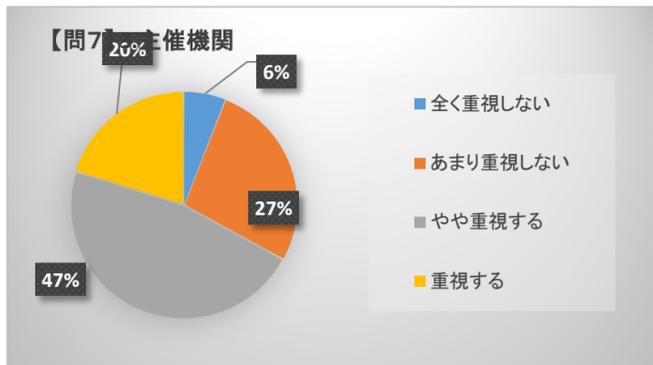
2. 講座内容

全く重視しない	0
あまり重視しない	3
やや重視する	125
重視する	327



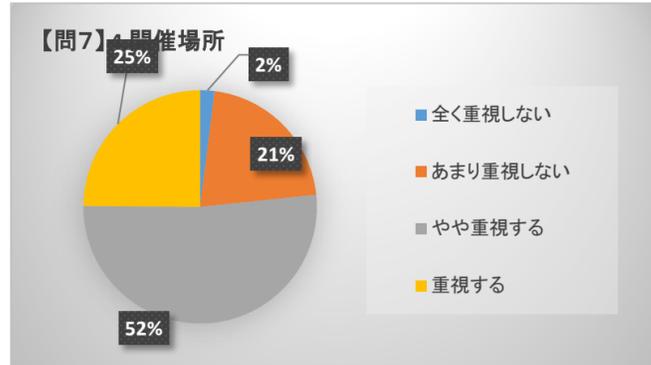
3. 主催機関

全く重視しない	27
あまり重視しない	123
やや重視する	213
重視する	92



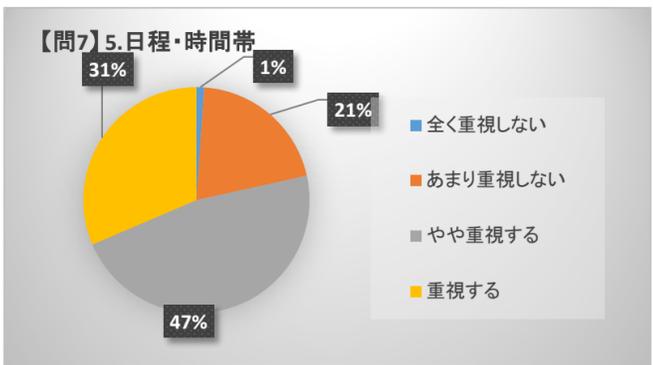
4. 開催場所

全く重視しない	9
あまり重視しない	97
やや重視する	235
重視する	113



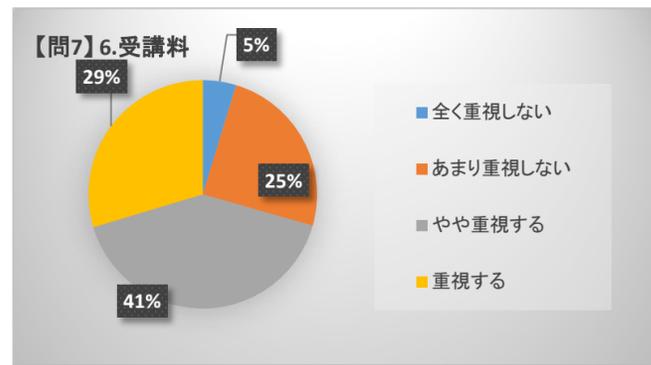
5. 日程・時間帯

全く重視しない	5
あまり重視しない	93
やや重視する	214
重視する	143



6. 受講料

全く重視しない	21
あまり重視しない	110
やや重視する	182
重視する	132



【問8】今回の会場について、いかがでしたか。

また、その理由についてお聞かせください。

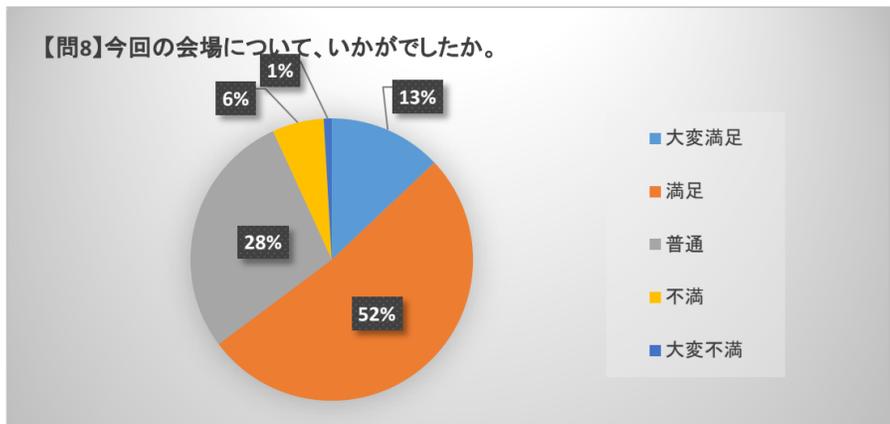
大変満足	57
満足	228
普通	125
不満	26
大変不満	4

(大変満足・満足の理由)

- ・説明画面が大きくて見やすい
- ・交通の便が良い(自宅に近い)
- ・人生の中で参考となることが多い

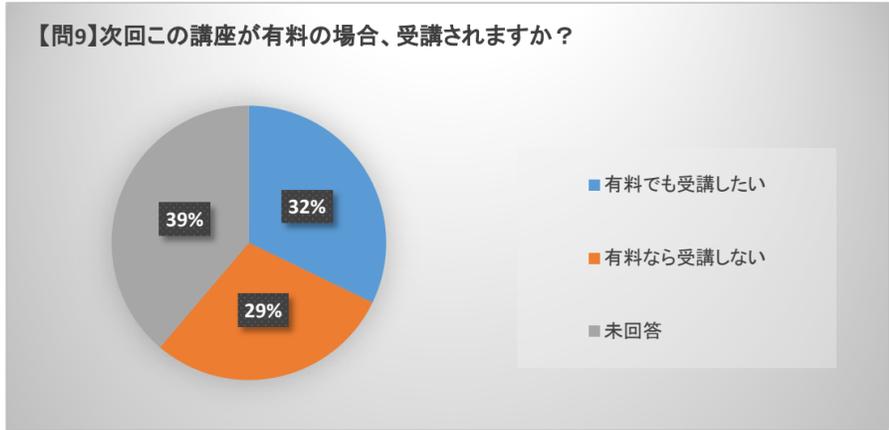
(不満・大変不満の理由)

- ・経済学部の講義とサイエンスカフェと重なって困った
- ・机の前後の間隔が狭い。三人掛けは出入が面倒。
- ・交通が不便(坂道がづらい)



【問9】次回この講義が有料の場合、受講されますか？

有料でも受講したい	224
有料なら受講しない	202
未回答	270



【問10】 その他ご意見、ご要望がありましたらお聞かせ下さい。【多数のご意見から一部を抜粋しました。】

第1回目 I (講師:国際社会科学研究院 松永 友有 教授)

- ・質問タイムがあり、理解が深められました。
- ・短時間の中で大きなテーマをまとめていただきましたが、大筋で理解できました。他国の経済危機の例も興味あるところです。講義を受ける前の予備学習の必要性を感じました。
- ・判り易くご説明頂いたので、理解できました。英政府が苦労した施策が何であったかを知りたい。
- ・イギリスの経済政策の分析の結果、現代の各国の経済政策、金融政策を見たときどうなのかという視点も聞きたかった。
- ・講義時間の短さからか、少し周囲状況の説明などが少ないと感じられた。

第1回目 II (講師:教育人間科学部 鎌原 勇太 専任講師)

- ・「戦争の数学モデル」は非常に興味深いものであった。
- ・今と将来直面する問題にも言及され面白かったです。鎌原先生のご発言の情報リテラシーを高めるということに感慨を覚えました。
- ・難しく堅いテーマをよくかみくだいて講義していただいた。とても面白かった。
- ・もっと長い時間90分位の講義であってほしい。
- ・日本の憲法政制にもふれてもらいたかった。

第2回目 I (講師:国際社会科学研究院 鈴木 雅貴 准教授)

- ・「多角的リスクマネジメント」という共通テーマと2件の個別テーマのバランスが非常に良く、興味深く聴講できました。
- ・難しかったが、面白かった。大学の講義らしい歯ごたえのある講義だった。
- ・株価バブルを数式を使って説明し、示唆を導き出す興味深い報告であった。
- ・「平成バブル」の分析が知りたかった。
- ・時間が50分では短く、かけあしにならざるを得ない。

第2回目 II (講師:国際社会科学研究院 高橋 正彦 教授)

- ・判り易く説明して頂きました。日銀での体験談も迫真のものでした。
- ・日本のバブルを改めて総体的に見て考える事が出来た。有意義な講義であった。
- ・研究や持論中心の講義が多い中、まさに生きた講義です。非常に聴き応えがありました。是非次回も期待しています。多角的リスクマネジメントというテーマに対し合致した内容でした。
- ・講演時間をもう少し長くしてほしい。
- ・知識としては理解できたが、どのように生かすかは？

第3回目 I (講師:環境情報研究院 野口 和彦 教授)

- ・市民のすべきこと、公がすべきことなど役割分担の重要性がよく理解できた。
- ・最近日本各地で地震が多発しており我々にとって重要な問題点で受講出来たことは有意義であった。
- ・非常にタイムリーな話でもあり、是非、もう一度時間を長くして取り上げてほしい内容でした。
- ・安全とリスク対策について、もうすこしくわしく聴かせてほしかった。
- ・このテーマでは時間が短すぎた。

第3回目 II (講師:国際社会科学研究院 関 ふ佐子 教授)

- ・年金の保険料の未納者の占率は今回の説明で判りました。日本社会の国民の生活の姿を「明確に示し」そのことの理解を進めて、年金制度改革を行う必要性を再確認。そのために、何をすべきか、そのような議論を進め社会を構築できればと思います。そのことができて、互助があるのかもしれない。
- ・今まで漠然とした理解が多かったが、今日の講義でクリアになったと思う。
- ・互助で居場所は確保できると思うが、足りない収入どう結びつけるかが問題と思います。
- ・現実・実態がよく分かりました。「どうすればよいか」をもっとお話しいただければと思いました。
- ・互助とは考えさせられた。50分は短い。